



猪苗代・翁島・千里地区の新成人

特集 誓い

20歳を迎えた若者の成人を祝うとともに、
成人としての責任や義務を理解し、
自覚を持ってもらうための儀式。それが成人式だ。
晴れの門出を迎え、式に臨んだ新成人は、
その成長を見守ってきた人々は、
何を感じ、何を思うのだろうか



月輪・長瀬・吾妻地区の新成人



Pick Up

今月のイベント

会津磐梯山エリアを 国内外に発信

スキーリゾートふくしま創造
会議は1月4日、遠藤尚選手
(株)忍建設スキー部)と星野
純子選手(チームリステル)の
両選手とスポンサー契約を締結
町役場で記者会見を開きました。
同会議は、昨季から本県ゆか
りの選手と契約を締結。地域が
一体となってモーグルトップ選
手を支援するとともに、ウエア
に貼り付けた「会津磐梯山エリ
ア」の文字入りワッペンで、地
域の認知度アップを図ります。
今季は、東日本大震災からの復
興の願いを込め、ワッペンに
「絆」の文字を入れました。

記者会見に臨んだ遠藤選手
は「東北にもっと元気を与える
滑りをしたい。一つでも多く表
彰台に上りたい」と力強く語り、
星野選手は「活躍して、少しで
も会津磐梯山エリアをPRした
い」と抱負を述べました。

※スキーリゾートふくしま創造会議
本町を含む磐梯山周辺地域の3町村
(猪苗代町、磐梯町、北塩原村)と
地域内のスキー場、スキー関係団体、
商工・観光団体、NPO団体や県な
どで構成する団体。磐梯山周辺地域
におけるウインタースポーツの基盤
強化と支援体制の充実を図るとも
に地域の活性化を目指して事業を実
施している。

まちの応援マガジン いなわしろ

広報 猪苗代

Feb.2012
2
No.616

今月の表紙



【撮影日】 1月8日
【撮影場所】 学びいな

町の平成24年成人式
は学びいなで開かれ、
会場は晴れの日を迎え
た新成人158人の笑
顔であふれました。
写真は「自立した大人
に成長したい」と笑顔
で答えた渡部由紀さん
(左)と渡邊晴香さん
(右)

Contents — 【目次】

- 02 Pick up
- 03 特集 誓い
- 08 個人線量計測定結果の概要
- 09 町施設の温室効果ガス排出量を公表します
- 10 スクールトピックス & ニュース INAWASHIRO
- 12 まちの話
- 14 笑顔でこんにちは／サークル紹介／保健だより
- 16 学びの泉
- 18 いなわしろタウンページ
- 22 暮らしの情報広場
- 24 みんなの美術館／食生活改善推進員コーナー

二十歳の誓い

町内の新成人 158人

24年の町成人式は1月8日、学びいなどで執り行われ、男子92人、女子66人の計158人が新成人として晴れの門出を迎えた。

「おっ！ 久しぶり」
「きゃあー 元氣だった？」
満面の笑みを浮かべ、久々の再会を喜ぶ新成人たち。学びいなどの廊下に響き渡る喜びの声は、式が始まる直前までやむことはなかった。

式では前後町長が「若い人たちは将来が見えにくい時代。一人一人が、目標と揺るぎない信念を持って社会を切り開いてほしい」と式辞を述べた後、町内6地区の代表者にそれぞれ成人証書を手渡した。
鈴木武喜町議会議長、小檜山善継県議が祝辞を述べた後、成人代表の土屋恒人さんが「私たちは、震災後の新しい価値基準



01



03



02



04

を作り上げていく第一世代。力を合わせ若く豊かな想像力を存分に発揮すれば、立ち上がる猪苗代町、強い福島、そして、明るい日本を作り上げることができる。それが私たちに与えられた使命の一つ。多くの人たちとの絆をより一層大切に、自分が選んだ道をしつかりと歩んでいく」と宣誓。会場は大きな拍手に包まれ、式は盛会のうちに幕を閉じた。

新成人へのインタビューでは、これまでの人生や未来に向けての思いなどを聞いた。

両親への感謝、東日本大震災、古里への思い、夢や目標など、新しく大人の仲間入りをした彼らを感じていたことの一部を紹介する。

五十嵐裕之 さん

震災や原発事故などがあり、亡くなった人も大勢いる。そんな中で成人を迎えられたことに感慨深さと責任を感じています。成人式では、久しぶりに友達と会えてうれしいです。育ててくれた両親に感謝しています。今は大学生なので、勉強を頑張りたいです。



Igarashi Yasuyuki

関和 瞳 さん

震災から今日まで、福島県の報道を目にしない日はなく、古里の深刻な状況を思うと胸が痛みます。福島県の国語教師になるのが私の夢。教師として福島復興の役に立っていきたいです。大学に入学し親元を離れたこともあり、家族に対する感謝の気持ちをあらためて感じています。



Sekiwa Hitomi

小椋 謙斗 さん

航空自衛隊百里基地に勤務しており、震災後は災害派遣で松島に行きました。被災地の想像を絶する光景や被災者の思いを肌で感じた経験から、二十歳になった今、新成人の若い力で日本を復興させたいと思います。親には、20年間育ててくれた感謝の思いをあらためて感じています。



Ogura Kento

吉川 夏海 さん

専門学校に通っていた私は、仙台で被災し避難所での生活を体験しました。家族や友達とも全く連絡が取れず、混乱した状況の中で、人とのつながりや支え合うことの大切さを感じました。現在は歯科助手の仕事をしています。仕事で親孝行できるように頑張っていきたいです。



Yoshikawa Natsumi

兼田 賢明 さん

東日本大震災の時は大学のある千葉にいました。電話もつながらない混乱の中、何よりも実家の家族が無事かどうか心配でした。両親に厳しく育てられたことは、今、自分の財産になっています。感謝の気持ちを込めて充実した大学生活を送り、勉強に励みたいです。



Kaneta Takaaki

長田 遥 さん

あの震災を乗り越えて、みんなでまた会うことができました。成人式を迎え、あらためてその喜びを感じています。現在は会社員として事務の仕事をしています。社会人として、一日でも早く一人前になれるように仕事を頑張りたいです。



Osada Haruka

安部 貴市 さん

震災は商工業に多大な影響を与えていますが、社会の中で人と人が協力する気持ちが芽生えたと思います。成人式は育ててくれた両親に感謝をする日。この気持ちを忘れずに頑張ります。リオンドール猪苗代店で魚を扱っているので、お客様に満足してもらえる商品づくりに努めていきたい。



Abe Takaichi

新成人から ひと言

楽しかったあの頃があった人知れず悩んだ日もあった未曾有の大震災も経験した幾多の困難を乗り越え、晴れの門出を迎えた新成人に今の気持ちを聞いた

2回目の成人式を迎えた
40歳の先輩から新成人へ
メッセージ



町企画財務課
土屋 伸 主査

成人を迎えた皆さん、大人の仲間入りおめでとうございます。

新成人に何かメッセージをというのですが、今私から皆さんに何かを伝えるとしたら、若いうちに積極的に人や地域と関わる活動をしてほしいということです。地域の消防団や青年会、女性なら趣味のサークル活動など、いろいろな年代、いろいろな地域の人と関わり合うことは、自分の世界を広げることになります。そうした他人との関わりの中から、社会の中で自分に求められている役割、自分のやりたいことや目指したいことなどのヒントが得られるかもしれません。まずは無理のないところから始めるのがいいと思います。

震災後の県内は大変な状況にあり、生活も就職も厳しい時期です。しかし、そんな状況を打破できるのも若い世代のアイデアや行動力です。これからの社会を、復興を支えていく仲間として、一緒に力を合わせて頑張っていきましょう。

町外に転出した人も、その転出先で、自分の生まれ育った猪苗代の置かれた状況やいい所をどんどん広めていってほしいです。もしかしたらそこから新しいつながりが生まれるかもしれません。



成人おめでとうございます

二十歳への誓い

「できれば地元に戻ってきたい」「復興のために頑張りたい」
紹介しきれなかったいろいろな意見がある。
「田舎じゃないところで暮らしたい」という人もいる。
全ての人が安心して暮らせる猪苗代へ。
前後町長がまちづくりへの決意を語る。



新成人の皆さんの猪苗代や福島を大切に思う気持ち。地元に戻って、こちらで頑張りたいという声なども聞けて、大変頼もしくうれしく感じております。同時に、行政としては、その気持ちに応える努力を怠りたくはないと思っております。そのためにはまず、若い人の働く場所を確保することが必要です。現在計画が進んでいる道の駅、地熱発電や企業誘致などでさらなる雇用の拡大に努めていきます。

新しい図書館には、子どもたちが勉強できるスペースを併設します。大人の目が届く場所であれば、親も安心して働ける。子どもたちも安心して勉強に取り組めるはずです。生産年齢人口はどんどん減少しており、超高齢化社会が目前に迫っている。若い世代や高齢者が、老後に不安を感じるようでは町に住むことはできません。医療機関から近い場所に高齢者住宅を建設すれば、安心して医療を受けられると同時に、町のにぎわいづくりに資することができる。福祉計画の見直しは現在進行中です。



猪苗代町長 前後 公
Zengo Hiroshi

成人式は、20歳の成人を迎えた若者を祝う場であるとともに成人としての責任や義務を理解し、自覚を持ってもらうための儀式だ。同時に、新成人にとっては、これまで見守り育ててくれた親や地域に、感謝の気持ちを伝える場でもある。

成人式のルーツは、戦後間もないころの埼玉県蔵町(現蔵市)にある。敗戦に打ちひしがれた若者たちを励まそうと地域住民が開いた「青年祭」が、しだいに全国に広まり、現在の成人式に発展していったのだ。

現在、地方自治体が主催し、一定の年齢になった人を集めて祝うのは成人式くらいだろう。全国に目を向ければ、毎年のように騒動が起きており、モラルの低下が叫ばれている成人式。そんな成人式が、ずっと続けられきたのは、地域や自治体が新成人に寄せる期待の大きさの表れであると思う。

少子高齢化が進み、生産年齢人口が減少していく中で、若い世代が果たす役割はますます大きくなっている。若者たちの持つエネルギーや新しい発想。働き盛りの年代が持つ技術や経験。それらをうまく組み合わせ、新しい時代に合わせた施策を作り上げることが必要だ。

成人式のルーツとなった青年祭の頃と震災からの復興を目指す現在の日本の状況は、少し似ているかもしれない。しかし、あの頃と違うのは、新成人たちが力強く立ち上がり、家族、地域や国を励まそうと考えていることだ。

「この町で働きながら、この町の人々を笑顔にしたい」「大学で勉強したことを地元で生かしたい」そう話す新成人たちが、猪苗代に住んで良かったと思う町を、新成人がその力を十分に発揮できるような町を作らなければならぬ。

そんな受け皿づくりを、町を、地域を挙げて進めていくことを新成人たちに誓おう。

特集 誓い 終わり